

博物館活用カード

活用学年及び時代	小学校6年 中学校	奈良・平安時代
活用資料コーナー及び 資料名	三芳野の里川越 須恵器、瓦経	
資料についての解説	須恵器…奈良・平安時代にわたってつくられた。渡来人によって大陸から伝えられた土器で、その製作にはろくろを使い、1000度以上の高温で焼いた。 瓦経…喜多院の多宝塔の下から出土した。西日本に多く見られる。	
学習内容	・大陸の文化がはいつてくることによって、生活に変化が見られること。	
〔博物館での学習〕 ①須恵器を見て、弥生式土器と比べて違っているところを見つけてみよう。 ※色や筋に着目させる。 ②ろくろが使われるようになると、そのほかにどんなところが変わってくると考えられるか。予想してみよう。 ③瓦経の中から、知っている漢字を書き出してみよう。 ・この頃には漢字が使われており、今と変わらないものもある。 ④仏教が伝わることで、ほかにどんなことが変わってくると考えられるか。   喜多院出土瓦経 不厭患無求出意舍利弗是長者作 是思惟身手有力當以衣被若以几 案從舍出之復更思惟是舍唯有一門 而復狹小諸子幼稚未有所戀著 戲處或當墮落為火所燒我當為說 怖畏之事此舍已燒宣時疾出無令 為火之所燒害作是念已如所思 (太字は残存部分) (裏) △瓦経白文△ 出典 法華経譬喻品(表) 故牆壁頽落柱根腐敗梁棟傾危周 巾俱時歟然火起焚燒舍宅長者諸子 若二十或至三十在此宅中長者見是 大火從四面起即大驚怖而作是念我 雖能於此所燒之門安穩得出而諸子 等於火宅內樂著嬉戲不覺不知 不驚不怖火來逼身苦痛切己心		
評価の観点	・須恵器は、弥生式土器と比べて、どのようなところが違うかを見つけることができる。(技能・表現) ・大陸からの文化が入ってくことで、どんな所が変わってきたのかを考えることができる。(思考・判断)	
活用のための留意事項	・ワークシートとともに教師の助言等が必要。	